

# 平成30年度 施策評価シート

## 1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー		
重点プロジェクト		”オールふじみ野”まちづくりプロジェクト		
主管課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	浦谷 健二	
		評価日	令和元年5月29日	
関連課	学校教育課、社会教育課			
目標	夢が広がり、生涯を通して学び続ける環境づくりの推進に向けて、多様なニーズを踏まえた市民の生きがい学習への参加機会の創出と支援を行うとともに学んだ経験を地域に還元する仕組みを構築します。			
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 生きがい学習環境の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民大学ふじみ野をはじめとする様々な生きがい学習の環境整備を進めます。</li> <li>○各世代に応じた講座の開設など、市民のニーズに応じた学習メニューを充実させ、学習活動を支援します。</li> </ul> <p>(2) 生きがい学習の地域還元</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民大学ふじみ野の修了生や生きがい学習ボランティア人材登録制度などを活用し、学びの成果を地域に還元する仕組みを構築します。</li> </ul>			

## 2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	生きがい学習受講生数					
		説明	市民の生きがい学習を推進する指標となるため。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		実績値	360	380	410	440	470	500
	指標2	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数					
		説明	市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数。受講後、学んだ経験を地域へ還元する指標となるため。(平成28年度からの実施事業。指標の数値は累計)					
		単位	回					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		実績値	20	30	45	60	80	100
	指標3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数					
		説明	生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数。市民による生きがい学習の機会を創出する指標となるため。(平成27年度の一部制度を改正。指標の数値は平成27年度からの累計)					
		単位	回					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		実績値	7	10	15	20	25	30
指標4	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	実績値							
指標5	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	実績値							

### 3. 施策への投入コスト

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	5,994	6,319				
	人件費	12,711	15,382				
収入	特定財源	166	465				
	一般財源	18,538	21,236				

### 4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	子ども大学ふじみ野の開校	「共に生きる社会の理解」をテーマに実行委員会が企画し、8月22日（LGBT、AI）、9月1日（障がい者スポーツ体験）、29日（自然、ふじみ野市を知るの3日間開校した。	小学校4年生から6年生の16名が参加し、学校では学ぶことのできない体験や学習を行った。	生きがい推進事業（一部）
取組②	市民大学ふじみ野の開催	地域での学びの促進と人材育成を目標に、NPOとの協働により市民大学ふじみ野において講座を開催した。	レギュラー講座9（94名）、特別公開講座3（230名）、学び合い講座4（25名）の参加があった。	市民大学ふじみ野運営事業
取組③	生きがい学習ガイドブックの作成	前年度末より公民館団体等に呼び掛けを行ったり、ボランティアの登録を募ったりして生きがい学習ガイドブックに掲載する情報を集めて6月下旬に2000部発行した。	ガイドブックを読んだ人からサークル活動に関する問合せが196件あったほか、まちづくり出前講座は27のメニューのうち7件が実施され、合計213人の参加があった。ボランティアについては5団体、24名の登録があり、4件派遣実績があった。	生きがい推進事業（一部）
取組④				
取組⑤				

### 5. 評価

評価	
指標の達成状況	平成27年度に教育委員会から市長部局へ移管された本施策は、学校教育や社会教育を経て培われた市民の主体的な学びを支援する事業（生きがい推進事業）と整理している。
おおむね順調	特に、市長部局で実施する特色としてその運営手法を市民協働に求め、平成28年度に「市民大学ふじみ野」を立ち上げ、NPOへの業務委託により運営を行ってきた。
行政資源の活用	「市民大学ふじみ野」では、「市民の学び 地域の学び 知の好循環」をテーマに、学びを地域への活動に繋げ、地域での活躍のきっかけとなるような講座づくりを行ってきた。
おおむね適切	今後は修了生の地域還元を顕在化するために、講座受講者後の受け入れ先の整備などが課題となっている。
取組の有効性	
おおむね有効	
施策の成果	
効果が得られている	

# 平成30年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名	生きがい推進事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト	"オールふじみ野"まちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
	施策	05 生きがい -市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します-		
予算費目	一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費			
所管部課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	桑子 恵美	
事務事業期間	平成27年度～	評価日	平成31年4月5日	
個別計画 根拠法令・条例等	地方自治法等			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民が地域で生き生きと活気に溢れ、生きがいを持って暮らせるようなまちづくりを推進するため、必要とされる市民力や地域力の向上を図る諸事業を展開する。		
	事務事業の経緯	生涯学習分野については従来の教育部局にとられず、他の分野と有機的に連携した施策展開を行うため、平成27年度から市長部局に移管された。ふじみ野市で取り組む生涯学習推進体制を「生きがい学習」と称し、事務事業としての位置づけを行ったものである。		
	事務事業の概要	①生きがい学習まちづくり出前講座：行政の取組み、情報発信の仕組みの一環として出前講座を提供 ②子ども大学ふじみの：小学4～6年生を対象とし、学校で学べない専門的カリキュラムを提供 ③生きがい学習ボランティア登録制度：様々なボランティアを募るための登録制度を実施 ④生きがい学習ガイドブック：サークル等、学びの情報提供の一環として年1回情報誌を発行		
	平成30年度の主な取組	・子ども大学ふじみの中では、平成30年度より「共に生きる社会の理解」という総合テーマを決め、カリキュラムを構成。また、初めて市長による講義を実施し、ふじみ野市の未来を担う子供に向け、共生社会の重要性を説いた。 ・生きがい学習ボランティアの募集を市民大学ふじみ野の受講者に向け実施し、1名の登録があった。 ・「生きがい学習ガイドブック」と名称を変更、さらに公共施設予約システムの詳細を掲載したことで、より一層の充実を図った。		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.68	0.40	0.70
		人件費	5,536	3,238	5,667
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	臨時・嘱託職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	133	0	0
人件費計		5,669	3,238	5,667	
事業費	報酬	76	0	0	
	賃金	687	0	0	
	需用費	170	151	153	
	委託料	1,962	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	150	40	80	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	89	38	55	
支出合計		8,670	3,467	5,955	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		8,670	3,467	5,955	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		76	30	52	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	生きがい学習受講生数		
	説明	出前講座、生きがい学習ボランティア派遣による学習、子ども大学の参加者数は、事業目的に対する関心度や効果を反映するものとして見なせ、市民の生きがい学習を推進する指標となるため。		
活動	単位	人		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	250	360	380
	実績値	290	297	
指標 2	指標名	生きがい学習まちづくり出前講座の実施メニュー数		
	説明	出前講座の実施メニュー数は、情報発信の仕組みづくりや地域社会との情報交換の仕組みづくりの一環として事業目的の効果度が図れるため。		
活動	単位	件		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	35	35	35
	実績値	28	27	
指標 3	指標名	生きがい学習ボランティアの活動実績数		
	説明	生きがい学習を支援するボランティアの活動実績数。市民による生きがい学習の機会を創出する指標となるため。（指標の数値は制度を一部改正した平成27年度からの累計）		
成果	単位	回		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	0	7	10
	実績値	1	4	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	①生きがい学習まちづくり出前講座：情報発信の仕組みの一環として出前講座を提供 メニュー数 27件、実施件数 7件、参加者数延べ213名
	②子ども大学ふじみの：小学4～6年生を対象とし、学校で学べない専門的カリキュラムを提供 平成30年度より「共に生きる社会の理解」というテーマを決め、カリキュラムを構成。LGBTやAI など先進的な内容について学んだ。また、初めて市長による講義を実施し、ふじみ野市の未来を担う子 供に向け、共生社会の重要性を説いた。  開校期間：平成30年8月22日(水)、9月1日(土)、9月29日(土) (計3回) 参加者数：16名参加
	③生きがい学習ボランティア登録制度：ボランティア登録制度を実施 登録ボランティア数(団体 5団体、個人24人) 派遣件数4件(申請数5件)、参加者数延べ 68名
	④生きがい学習ガイドブック：サークル等、情報提供の一環として情報誌を発行 2,000部を6月下旬に発行し、市内公共施設に配架。 掲載されているサークル・団体情報については、196件の仲介を行った。

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	平成27年度から移管を受けた生涯学習分野の各事業は市民大学ふじみ野運営事業に整理・統合してき た。新文化施設の方向性や公民館の在り方等と連動しながら、当市の生涯学習事業(生きがい学習)の 方向性を見直す段階にある。
中長期的方向性	
継続	

# 平成30年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名	市民大学ふじみ野運営事業		前年度の方向性	拡充
重点プロジェクト	"オールふじみ野"まちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー		
予算費目	一般会計 02総務費 01総務管理費 10コミュニティ活動促進費			
所管部課	市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	桑子 恵美	
事務事業期間	平成28年度～	評価日	平成31年4月5日	
個別計画 根拠法令・条例等				
事務事業の内容	事務事業の目的	「市民の学び 地域の学び 知の好循環」を基本理念に、市民による市民のための学びの場を提供する。「市民」「地域」「市民大学ふじみ野」が連携を図り、有機的に結合することによって、地域の課題解決策の提案や実践していく人材育成を行い、もって「知の好循環」を目指す。		
	事務事業の経緯	平成28年度からの事業として、3年目を迎えた。年間を通じて16講座を展開した。		
	事務事業の概要	市民大学ふじみ野の運営主体は市であるが、市民のニーズを的確に把握し、迅速かつ柔軟性のある運営を推進するため、平成28年1月に設立された特定非営利活動法人ふじみ野みらいに講座等の企画運営や市民大学ふじみ野の事務局運営を委託形式により実施している。		
	平成30年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>レギュラー講座：初めて市職員を講師としてカリキュラムを設定し、福祉に関する講座を実施した。</li> <li>特別公開講座（文京学院大学）：生きがい推進事業から移管し、学びの場を整理・集約することで新たな学びの推進を目指した。心身の健康について、2講座を実施した。</li> <li>特別公開講座：市民大学の周知を目的に、初めて映画の上映を講義内容に盛り込んだ。</li> <li>学び合い講座：生きがい推進事業から移管し、市民同士による学びの循環を確立させた。</li> </ul>		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.78	0.52	0.60
		人件費	6,350	4,210	4,858
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	臨時・嘱託職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
	人件費	133	0	0	
	人件費計	6,483	4,210	4,858	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	16	0	0	
	委託料	3,168	3,317	3,460	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	38	0	0	
	支出合計	9,572	7,527	8,318	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	148	104	400
	一般財源	9,424	7,423	7,918	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		83	65	69	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民大学ふじみ野講座数		
	説明	市民大学ふじみ野で実施されるコースの数（学び合い講座4講座、特別公開講座3講座含む）は、事業の目的に掲げる人材育成を充実させていく取り組みの指標として見なせるため。		
活動	単位	講座		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	10	10	23
	実績値	14	16	
指標 2	指標名	市民大学ふじみ野受講者数		
	説明	市民大学ふじみ野で実施する各種講座の受講者数は、事業目的に対する関心度や事業効果を反映するものとして見なせるため。平成30年度より特別公開講座及び学び合い講座の受講者数を追加。（平成29年度までは生きがい推進事業として実施）		
成果	単位	名		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	120	250	300
	実績値	211	349	
指標 3	指標名	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数		
	説明	市民大学ふじみ野を受講し、その知識や技術を活かして地域活動に参加した回数。受講後、学んだ経験を地域へ還元する指標となるため。（平成28年度から実施している事業。指標の数値は累計）		
成果	単位	回		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	0	20	30
	実績値	0	0	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>①レギュラー講座：専門性の高い講座から人気の講座まで幅広いジャンルからテーマを選定する基本となる講座 前期：5講座 受講者：60名 後期：4講座 受講者：34名</p> <p>②特別公開講座（文京学院大学）：文京学院大学と連携し、2日間の公開講座を実施 1日目：「姿勢の歪みとカラダの不調の関係」 受講者：64名 2日目：「児童・思春期・青年期のメンタルヘルスを考える」 受講者：41名 受講者合計 105名</p> <p>③特別公開講座「ささえよう 認知症」：会場を講義室外に移し、多くの聴講生を募り市民大学の周知を目的として実施 講演「認知症の人の心」 映画「妻の病 —レビー小体型認知症—」 受講者：125名</p> <p>④学び合い講座：市民から講師を募り、市民どうしの学びの循環の仕組みを確立させた。 提案講座数8講座、実施講座数4講座、受講者数25名</p>
--------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携強化</li> <li>・人材育成と地域還元の道筋</li> </ul> 上記二点を意識した講座の企画を基に、NPOとの協働（委託）事業として市民大学を運営していく。
中長期的方向性	
拡充	

# 平成30年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		市民憩の森管理運営事業		前年度の方向性		
				継続		
重点プロジェクト						
施策体系	分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～				
	施策	05 生きがい ー市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進しますー				
予算費目						
一般会計 02総務費 01総務管理費 11コミュニティ施設費						
所管部課				市民活動推進部 協働推進課	評価責任者	桑子 恵美
事務事業期間				平成25年度～	評価日	平成31年4月5日
個別計画 根拠法令・条例等						
ふじみ野市市民憩の森条例 ふじみ野市市民憩の森条例施行規則						
事務事業の内容	事務事業の目的	市民憩の森において、自然とのふれあいを通して、青少年の野外体験活動、地域コミュニティ及び異世代間の市民交流の推進を図る。				
	事務事業の経緯	・平成25年3月をもって土地返還した鶴ヶ岡青少年野外活動ひろばの代替施設として、聖路加国際病院が市内に所有する山林を「使用貸借契約」により借受け、「ふじみ野市市民憩の森」を平成25年7月1日（条例施行）に設置した（平成25年7月16日から供用開始）。				
	事務事業の概要	①野外活動広場・レクリエーション広場の貸出し業務 ②実行委員会による施設の利用促進活動の推進 ③施設の維持管理				
	平成30年度の主な取組	①レクリエーション広場の利用者に対し、公共施設予約システムの利用について手引きを行った。 ②市民憩の森保全活用実行委員会と協働で、実行委員会の会員募集も兼ねて、憩の森に親しめるイベントを開催した。4月：なつかしい春の森であなただけの自然体験 11月：アウトドア×ヨガ 大自然でリラックス！ ③地権者である聖路加国際大学との、施設の管理に関する協議の場を設けた。				

## 2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.39	0.65	0.60
		人件費	3,175	5,262	4,858
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	臨時・嘱託職員	従事人数(人)	0.19	0.00	0.00
		人件費	252	0	0
人件費計		3,427	5,262	4,858	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	188	255	370	
	委託料	1,883	2,178	2,157	
	使用料及び賃借料	7	7	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	66	9	44	
支出合計		5,318	7,710	7,429	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	82	62	65
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		5,236	7,648	7,364	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		46	67	64	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市民憩の森利用登録団体数		
	説明	施設の利用登録団体数を基礎指標とみなし、活動指標として設定する。		
活動	単位	回		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	50	80	80
	実績値	67	74	
指標 2	指標名	市民憩の森利用者数		
	説明	施設の利用数を基礎指標と見なし、成果指標として設定する。		
成果	単位	人		
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値	2,500	100,000	110,000
	実績値	9,882	9,855	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>①窓口にて通常の受付事務と、大井総合支所にて公共施設予約システムの利用が困難な高齢者向けの出張受付を行った。高齢者の希望者に対して、公共施設予約システムの使い方について手引きを行った。システムを利用した方からは、「思ったより簡単に予約ができて良かった。」などの声をいただいた。</p> <p>②憩の森保全活用実行委員との協働で、4月に「なつかしい春の森であなただけの自然発見」、11月に「アウトドア×ヨガ 大自然でリラックス!」を開催した。事後アンケートにて、イベントの感想は「とても良かった、または、良かった」と回答した参加者が双方の事業で100%であった。</p> <p>③施設内の樹木の高齢化により、折れ枝・枯れ枝の発生を把握し、剪定を迅速に実施した。土地の貸主である聖路加国際大学との意見の摺り合わせにより、施設の安全管理の方向性を定めた。今後は、安全確保に重点を置いた施設管理を実行することとする。利用者の安全な利用のため、市民や委託業者とともに体制を構築するための基盤ができた。</p> <p>④10月に発生した台風24号により、樹木が大きな被害を受けたため、10月1日～10月9日まで連続して臨時休園とし、安全管理を十分に行った後、市民への貸出を再開した。</p>
------------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の維持管理について、一層安全に注力する体制とする。</li> <li>イベントについては慎重にニーズを汲み取り、実施する。</li> </ul>
中長期的方向性	
継続	